

Urban Innovation Kobeを活用した取り組み

Urban Innovation Kobe(事務局:企画調整局企業立地課)

柔軟な発想や優れた技術力を持つスタートアップと社会・地域課題を詳しく知る行政職員が協働して最適な解決手法を見出し、サービスとして構築・実証



平成30年度上期は6テーマ採択
7月～10月の4ヶ月を協働期間として実施

公共交通課から2テーマ

①地域統合バスロケの整備実証実験

株式会社トラフィックブレイン

Traffic Brain

②地域コミュニティ交通の予約システムの実証開発

コガソフトウェア株式会社

KS Koga Software Company

孝行デマヨドバス

(UIK) 地域統合バスロケの整備実証実験

■課題

神戸市内のバスロケーションシステムは各社個別に導入されており、アクセス方法や表示方法が異なっていることから、統合的な整備について検討し利用者利便性の向上を図りたい。

■取り組みの方針

バスロケーションデータ及びダイヤ情報等の静的なデータも含めたバス情報データの標準化・オープン化の検討を進め、データの幅広い利活用を目指す。

※バス情報データの標準化

標準的なバス情報フォーマット「GTFS-JP」に基づくデータ整備を推進。

「GTFS-JP」は、世界的に普及しているGTFSに日本の路線バス独自の項目を付け加えたフォーマットとして2017年3月に国土交通省が制定・公開。

共通フォーマットで情報が用意されると、複数の公共交通機関の情報を利用する経路検索等のアプリケーション開発が容易になる。

■具体的な取り組み

- ・バス事業者・バスロケーションシステム事業者への個別ヒアリング・意見交換
- ・勉強会の開催(2回)
- ・データ整備と活用のデモ作成
- ・取り組みの情報発信

■成果

- ・データ利活用方策案の整理
- ・路線バス事業者との共通理解の醸成と方針共有
⇒データ標準化を目指すことについて合意、オープン化についても特に反対意見はなし
- ・各路線バス事業者におけるデータの整備状況の把握・データ標準化対応方法の確認

(UIK) 地域統合バスロケの整備実証実験

[利活用イメージの例]

・経路検索サービスの向上



⇒ 精度向上・情報掲載の簡略化
・遅れ情報の表示

・デジタルサイネージ



⇒ 統合的な情報掲載の簡略化
・設置しやすさの向上(タブレットの利用等)
・遅れ情報の表示

・分析への活用
(遅延対策、公共交通網の最適化検討等)

[オープン化により期待する効果]

- ・多様なサービスでのデータ利用の拡大
- ・新しいアプリ等国内外でサービス開発促進



(UIK) 地域統合バスロケの整備実証実験

■今後の取り組み予定

(1) 利活用方策の検討・PR

引き続きバス情報データの標準化・オープン化についての検討を進めるとともに、データの利活用に向けた検討とPRに取り組む。

- ・関係者との協議・勉強会等の実施
- ・データの活用に向けたPR(ハッカソン等)

(2) デジタルサイネージを活用した情報提供の実証実験

標準的フォーマットのデータを利用し、デジタルサイネージ(タブレットや一般的なモニター)を活用して複数のバス会社・システムの運行情報を提供する実証実験を実施する。

- ・表示内容: バス時刻表・バスロケ・行政情報 等
- ・設置候補地: 例えば、交通結節点の駅・公共施設・店舗・バス停 等
- ・利用状況・ニーズ把握
- ・補助スキーム・運用方法の検討



(UIK) 地域コミュニティ交通の予約システムの実証開発

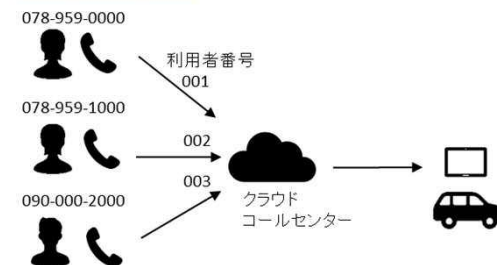
■概要

- ・淡河町では、平成30年5月より地域振興推進協議会が実施主体となり、淡河町ゾーンバスを運行。
- ・電話による予約受付を行っているが、実施主体の負担軽減、予約の効率化を図るため、音声自動応答装置を活用した予約システムを開発する。

■予約システムの特徴

- ・クラウド型の自動音声応答式コールセンターにより、スマホ操作が苦手な方でも電話(ボタンプッシュ)で予約できる。
- ・24時間365日、いつでも予約できる。
- ・行き先、利用日時などのデータが蓄積される。

主な対象者:高齢者



淡河町ゾーンバス

自家用車を使用した有償運送

- ・実施・運行: 淡河町地域振興推進協議会
- ・運賃: 300円



(UIK) 地域コミュニティ交通の予約システムの実証開発

■具体的な取り組み

- ・他自治体で実績のある運行管理システムをベースに音声自動応答による電話予約システムを開発。
- ・利用者を対象に開発したシステムの実証実験を実施。

<実証実験の概要>

・日時

1回目 : 2018年11月9日(金曜)

2回目 : 2019年1月15日(火曜)

・実施場所

淡河連絡所、上淡河地域福祉センター、利用者の自宅

・実施内容

淡河町ゾーンバスの利用者に、テスト環境(集会所および自宅)下で自身の携帯電話やスマートフォンを用いた予約操作を行って頂いた。

・実験結果

電話予約システムについて、約7割のモニター利用者が合成音声での応答について抵抗感はないと回答。

操作方法については、少し難しいものの慣れれば見えそうという声が聞かれた。

■成果

- ・実証実験による地域の意見を踏まえた音声自動応答による電話予約システムの開発を完了。
- ・予約システムの試験導入を行う。

